

週報 太田中央ロータリークラブ

2017年6月9日(金) 通算第1183回 通常例会



会長挨拶

会長 大谷 祐三

<ロータリー財団の父>

「ロータリー財団の父」と讃えられるアーチ・クラフは、1869年6月6日、ペンシルバニア州コネチカットの貧しい家庭に生まれました。幼少の頃、両親と2人の兄と共にオハイオ州クリーブランドに移住。家計の足しにするため、12歳で学校を辞めて仕事についたそうです。仕事をしながら彼は夜間学校にも通い、18歳の時、キューヤホガ木材会社の雑用係の職につきました。その後、どんどん昇進して最終的にはその会社の総支配人、そして経営者になったのです。彼は、製箱会社や汽船会社、銀行の社長、不動産業などでも、経営手腕を発揮しています。また、優れたフルート奏者として、クリーブランド交響楽団で14年間に亘って活躍したことでも知られています。



1911年、クラフは「木材卸売ならびに小売」の職業分類でクリーブランドRCの創立会員となり、翌1912年に同クラブの会長をしています。熱心なロータリアンだったらしく、友人達は彼のことを「寝てもさめてもロータリーだ」と評していたと伝えられています。彼は、クラブ会長としての最後のスピーチで、今後、クラブが多くのことのできるように「非常時基金」を作ることを提案しました。この提案が、彼が1916～17年度の国際ロータリークラブ連合会の会長を務めた時の提案に繋がったとされています。

また、彼は1914年に国際ロータリークラブ連合会の理事になり、1915年に採択された標準ロータリークラブ定款・細則の制定に携わった責任者であったことでも有名です。さらに、ロータリーに地区を設け、地区ガバナー職をつくり、年次地区大会を確立したのも、彼の業績なのです。驚くべきことに、これらの彼の活躍は、第一次世界大戦(1914～1918年)の最中の出来事でした。1928年のミネアポリス国際大会で「ロータリー基金」が「ロータリー財団」と改称された折、当時、管理委員であったアーチ C. クラフは次のように述べています。「我々は、この財団を今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきです。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからです」。実際、彼が1928年9月号のロータリアン誌の記事で主張した「これからの財団プログラム：学生の交換、グループの交換、国際事業関係を通じての友好」は、その後、財団事業として実施された奨学金、研究グループ交換、マッチング・グラントなどの形で実現しているのです。まさに、彼は「ロータリー財団の父」と呼ばれるに相応しい人なのです。

◇例会場 ダニエルハウス 太田市飯田町895 TEL0276-47-1222

◇例会日 金曜日 12:00～

◇事務局 〒373-0853 太田市浜町3-6 太田商工会議所会館4階12号室

TEL0276-48-8231 FAX0276-48-8232

Eメール ota-chuo@rid2840.jp

会長 大谷 祐三

幹事 鈴木 孝史

クラブ広報委員会

委員長 栄井 孝広

副委員長 田村 政一

<最初の補助金>

1928年、ロータリー財団は、初の補助金500ドルを「身体障害児童保護国際協会」へ贈りました。これについては、少し裏話があるのです。実は、ロータリーの創始者ポール P. ハリスが匿名で500ドルを財団に寄付し、その500ドルを「身体障害児童保護国際協会」へ寄贈することを要望したという話が残っているのです。

この協会は、ロータリアンだったエドガー F. アレン (Edgar Fiske Allen 1862-1937) (通称; ダディー・アレン (Daddy Allen)) が創設したもので、後に「全米イースター・シール協会」(米国の慈善団体) へ発展したことで知られています。このダディー・アレンの独創的な身体障害児童援助活動は、既に1919年に始まっていました。

<財団の概要>

ロータリー財団の正式名称は「国際ロータリーのロータリー財団 (The Rotary Foundation of Rotary International: TRF)」で、構成する法人会員は国際ロータリーだけです。また、財団の法人設立定款と細則によって「慈善的、教育的目的のためにのみ運営するもの」と定められており、元RI会長を含むロータリー財団管理委員と事務総長によって運営されています。

財団管理委員会は、2007年6月、ロータリー財団の使命を「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」と定め、2011年9月に「ロータリー財団は、寄付を受け、ロータリークラブや地区を通じて実施される人道的・教育関係の活動に資金を分配する非営利財団である」と定義しました。なお、ロータリー財団の標語は、皆さんもよく御存知の「世界で良いことをしよう (Doing good in the world)」です。

<財団の成長>

第二次大戦後の1946年1月、RI理事会は次のような声明を出しています。しかし、そうした掛け声とは裏腹に、第二次大戦の生々しい爪痕が世界中に残っている中、ロータリー財団は資金的にも活動的にも苦しい状況が続きました。ところが、1947年1月27日、ロータリー創設者のポール P. ハリスが亡くなると、事態が一変したのです。70カ国以上30万人以上のロータリアンが、彼の死を悼みました。その後、数多くのロータリアンが、彼の偉業を讃えて多額の寄付を国際ロータリーへ寄せるようになり、財団は「ポール・ハリス記念基金」を設けたのです。そして、翌年の7月までに130万ドル以上の寄付が集まり、その後の財団発展のために役立てられました。以来、ロータリー財団は、資金的にも活動的にも発展を遂げるようになったのです。

「未来の夢計画」というのは、「人道的・教育プロジェクトの規模をこれまでよりも広げ、ロータリアン自らも活動しやすい多種多様な奉仕プロジェクトを実施することで、社会に多大な影響と持続可能な成果をもたらし、かつロータリーの公共イメージの高揚にも貢献する、より効果的で効率的、簡素化した支援方法を目指した新しい補助金モデル」と理解すればよいでしょう。

この新補助金は、「新地区補助金」と「グローバル補助金」の2種類からなり、補助金を必要とするプログラムの計画・申請・承認を当該前年度に行わなければなりません。それらの詳細については、他の資料を参考にいただければと存じます。

いずれにしても、「未来の夢計画」によって、「ロータリアン自らが創造し、かつ自らも参加・活動しやすい奉仕プロジェクトを行うために、ロータリー財団の補助金が活用しやすくなった」と、前向き考えればよいのではないのでしょうか。

<ロータリー財団は好きでない？>

ベテランのロータリアンから、「最近のロータリーは、寄付集めの団体に堕してきた」という言葉をしばしば耳にします。私自身、「ロータリーは、寄付集めの団体でもなければ奉仕団体でもない。奉仕の心を育て、自ら奉仕を実践する立派な職業人を育てる団体だ」という思いを強く持っています。それだけに、決議23-34に明記された「クラブ自治権」や「社会奉仕事業の在り方」を考えた時、ロータリー財団があまりにも強大な組織となり、地区やクラブを通して財団への寄付を推奨され、かつ財団による奉仕プログラムを奨励されることを、少なからず苦々しく思っていたことも確かです。しかし、建前上、財団への寄付は強制や強要ではないし、それがロータリーの会員資格の条件になっているわけでもありません。

私は、ロータリー創設者であるポール P. ハリスの「動機は純粋か？」という言葉思い出します。彼はロータリーで新たな問題が提起され、その解決策が検討された時、その妥当性については勿論でしょうが、何よりも「その問題提起と解決策の提案に、不純な意図はないか？ 動機は純粋か？」を重く考えて、その賛否を決めたそうです。

(2016年7月3日 初稿 文責：鈴木一作)

幹事報告

幹事 鈴木 孝史

1. 報告事項

なし

2. 連絡事項

A. 申し込み・回覧・出欠確認等

①次週は準例会・誕生会です。

会場：ダニエルハウス

開始：午後7時

会費：4,000円

②例会終了後、次年度理事会を開催します。

B. 分区内の例会変更：なし

分区外の例会変更：前橋西、前橋南、前橋中央

C. 会報：太田、館林、館林西



委員会・部会・地区委員 報告



ロータリー財団 委員会

「R財団・ポリオ・米山記念奨学寄付者報告」

委員長 滝本俊雄

クラブアッセンブリー

「各委員長 1年間の報告」



- クラブ特別委員会 委員長 大谷克己
- ロータリー財団委員会 委員長 滝本俊雄
- 女性ネットワーク委員会 委員長 北澤恵美子
- 長期計画委員会 委員長 松本 徹



- クラブ会員組織・強化委員会 副委員長 岡田秀一
- クラブ広報委員会 委員長 榮井孝広
- クラブ管理運営委員会 委員 鵜飼政彦
- 青少年奉仕委員会 委員長 茂木一博

誕生会（5・6月生まれ）開催（準例会）

日時：平成29年6月16日 19:00
場所：ダニエルハウス（太田市飯田町）

